

お供物について

お寺の御本尊様やお仏壇のご先祖様、またはお墓など様々な場所でお供物を用意する機会があります。そのような時に、何を用意するべきか迷ったことがある方も多いと思います。宗派や土地の習慣など、一定しない要素も多々ありますが、仏教の一般的な立場として、いくつかの基本的なお供物の種類と、その決まりごとを記してみたいと思います。

○お香について

仏前には必ずお供え致します。種類は焼香用のお香からお線香まで形もその成分も様々です。その由来は、はるか昔の『俱舎論』くしゃろんというお経です。そこには、仏様にとってお香の良い香りとその煙が、大変な御馳走であると説かれています。また真言宗では、お香は火を点けると燃え尽きるまで絶え間なく香りを放ち続けます。よって絶え間なく努力する精進の徳を表わしていると考えます。そして、お香の煙が周囲に満遍なく広がる様に、その精進の徳も周囲に満遍なく広がるのです。

○お灯明について

今ではほとんどが蠟燭ですが、昔は油を用いて火を点けていました。このお灯明もお仏様への大切なお供物です。このお灯明の火はお線香に火を点ける為だけのものではありません。この火そのものがお供物なのです。よって、お仏壇の前などでお参りする際は必ずお灯明を点けましょう。この火はお仏様の知恵を表わします。煩惱がある世界は暗闇に閉ざされています。そんな暗闇を明るく照らして下さるお仏様の知恵の象徴なのです。

○お花について

仏花といえ、まず菊が代表的です。しかし、何も菊に拘る必要もありません。故人が好きだった花や、その時期に一番美しく咲いている花をお供えしましょう。ただ、避けるべき花もあります。トゲがある、悪臭がある、一日花、萎みかけ、虫食い、不浄な土地に咲いた花などがそれにあたります。花は暑さ寒さに耐え忍んで咲き、我々に美しい姿を見せてくれます。よって忍辱にんにく（耐え忍ぶ）の徳を表わします。耐える心は怒りを鎮めて穏やかな心をもたらしてくれます。

○飲食について

多くは家の中ではお茶、お墓などの外ではお水をお供えすることが多いようです。水は全ての源であり、すべてのものを平等に潤します。よって布施ほどこし（ほどこし）の徳を表わします。また、その他のご飯や果物などの食物は、我が身を養い、気持ちをはなれさせる禅定ぜんじょうの徳を表わします。お腹が空いていては落ち着きません。食すれば、瞑想するように気持ちを落ち着かせてくれるのが食物です。

これら食物は、旬の果物や野菜などをお供えするのが基本ですが、やはり避けるべき食物があります。まずは五辛ごしんと呼ばれる、ニラ、ネギ、ニンニク、ラッキョ、サンショウという刺激の強いも

のです。それに準じて、タマネギ、ワケギ、カラシ、ワサビ、コシヨウなど、そして魚貝類、鳥獣の肉も避けます。

よく山海の珍味という言葉が使われます。山の幸、海の幸のことですが、この場合でも前述のものを避けつつ、その時期一番の山海の御馳走をお供え致します。新しく石塔（お墓など）を建立した時によくお供え致しますが、普段からお供えしてもよいお供物です。ただし、山海の珍味とは沢山の食物の中でも一番の御馳走という意味です。よって、毎回用意することが困難なので、特に大切なご供養の時にお供えするお供物になったと思われれます。

また、亡者等に供えするお膳があります。一汁三菜を基本としますが、多くの伝えがあります。並べ方も多種多様です。その中で、一伝を記します。

- ① 飯椀 ご飯
- ② 汁椀 お吸い物、味噌汁
- ③ 平 煮物
- ④ 坪 膾（大根や人参を細かく刻み酢などであえた料理）
- ⑤ 高杯 漬物

このように、お供物には様々な種類や決まりごとがありますが、一番大事なことはおもてなしの心です。本尊様やご先祖様を思って、その時々一杯の精一杯のおもてなしをすることが何よりの御供養です。毎朝お線香をあげて、ご飯とお茶をお供えする、頂きものがあればまずはお仏様にお供えしてから皆で頂く、そのような小さなことの積み重ねが大切です。対象が目に見える、お供えしたからすぐに何かの反応がある世界では無いかもしれませんが、だからこそ疎かにしてしまいがちです。時間に追われる現代ではお供物を用意することも大変です。しかし、目に見えない存在へ手を合わせる、お供物を捧げるといふ行為は、必ず豊かな心を生み出します。小さなことでも有難いと感謝する心、自らに固執しないでお陰様と広く周囲に感謝できる豊かで優しい心が養われます。皆がこのような心を持って生活する国のことを、弘法大師空海上人は「密嚴浄土^{みつごんじょうど}」という仏様の国であると言われました。遙か彼方にあるようなイメージの仏様の国ですが、今我々が住んでいるこの世界こそが心が次第で仏様の国になる、そんな様にお大師様はお説きになられています。

非常にスケールの大きなお話になりましたが、間違いなくお供物は、密嚴浄土実現の為の大切なきっかけです。そのようなことを少し思い返して、意識しながらお供えをしてみましよう。すぐには何も変わらないかもしれませんが。しかし、続けることが何より大切です。一步一步ゆつくりと、でも着実に仏様の心へ近づくことが出来るのです。